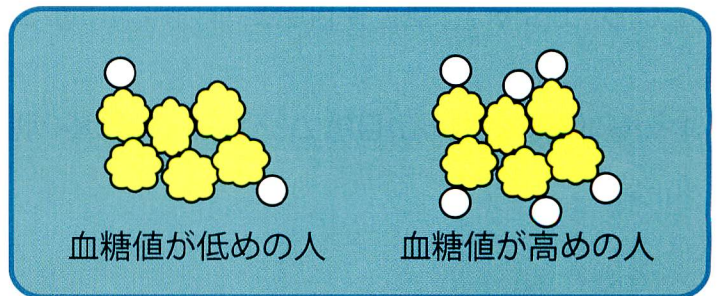
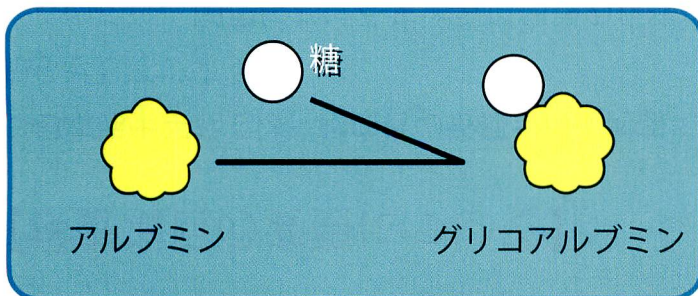


【グリコアルブミン検査について】

グリコアルブミン (Glycoalbumin;GA) とは、血液中に存在するアルブミンというタンパク質が血液中のブドウ糖（グルコース）と結合してできる物質です。

グリコアルブミンは血液中のブドウ糖量（＝血糖値）とその値が続いた時間に比例するため、血液中のグリコアルブミン量を調べることで、血糖値の変化を間接的に知ることができます。グリコアルブミンは過去約2週間の平均血糖値を反映しているといわれています。



よくあるご質問



なぜ今まで糖尿病の検査を導入しなかったのですか？



一般的に実施されている糖尿病関連の検査は、空腹状態での採血が必要であったり、採血後直ちに検査する必要がある等、これまでの献血の事業に適した検査方法がみられなかったことから、検討は行っていましたが、実現は難しいものがありました。



血糖値測定やHbA1c検査ではなく、なぜグリコアルブミン検査を導入したのですか？



血糖値測定は食事の影響を受けやすいことから、空腹時の血糖値を測らなければなりません。しかしながら、献血の際に空腹であることは採血副作用の危険性が高くなること、さらに検査用検体を新たに1本追加する必要があること、また、HbA1c検査は特殊な検査装置を用いる必要があることなど、両検査を実施するには難しい点がありました。一方、グリコアルブミン検査は検査用検体を追加する必要がなく、また、現在血液センターで用いている検査装置により迅速に検査を実施することが可能であったことから導入しました。



なぜAST検査を止めたのですか？



今までお知らせしていた生化学検査成績には、ALT、AST、 γ -GTPの3つの肝機能検査項目が含まれておりました。これは、日本で肝炎の発症が多かった過去の時代背景に基づき設定されたものであります。

このたび、時代に即した検査項目の設定について検討した結果、ALT及び γ -GTP検査で肝機能の評価が十分可能であることから、肝機能検査項目を1つ減らして糖尿病関連の検査項目を実施することとし、AST検査に換えてグリコアルブミン検査を実施することといたしました。



グリコアルブミン検査の結果が標準値から外れていました。今後献血はできますか？



グリコアルブミン検査は、輸血用血液の安全性を確保する検査ではありませんので、今回の結果が標準値から外れていても、次回の献血にはさしつかえありません。



献血しなくてもグリコアルブミン検査をしてもらえますか？



グリコアルブミン検査等の生化学検査成績及び血球計数検査成績のお知らせは、献血者の皆様への感謝の気持ちとして実施しておりますので、検査のみのご希望には沿うことができません。

